

週刊文春*特別広告企画

進化する感染症対策の今

今年5月にも新型コロナウイルスは「コロナ2019」と改称され、現状の2類相当から季節性インフルエンザと同等の5類へ引き下げられる。しかしまだウイルス感染の脅威が完全に消え去ったわけではない。
「自分の身は自分で守る」そのための最新感染症対策を探った。

5類へ引き下げも、自己責任の負担は増大!?

約3年続いたコロナ禍も転換期を迎えようとしている。政府は5月8日から新型コロナウイルス感染症を行動制限等のある感染法上の2類から季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げることを決定。マスク着用は個人の判断に委ねる

との方針を示した。これによりやくコロナ禍から解放される、と手放して喜べる国民はほとんどいないだろう。アメリカでは新たな変異株「XBB:1.5」も発生。日本でも拡大傾向にある。ワクチン接種も含め、これからは「自己責任」でリスクに備えなければならぬ。新たな局面に突入したといえるだろう。

”ノーマスク時代”の感染対策 ”自衛”のカギは「空間除菌」

大空間に対応可能で注目！ 次亜塩素酸噴霧の除菌効果

今さらだが、ウイルスの感染経路には「接触感染」(飛沫感染)「空気感染」がある。接触感染は手指の消毒、飛沫感染はマスクの着用である程度予防できる。問題は空気感染だ。感染者の咳やくしゃみでしぶき(飛沫)となって排出され

た病原体が極微細な「飛沫核」となって空間を漂い、それを吸い込むことで感染するものでエアロゾル感染も似たような現象だ。「ノーマスク」時代に突入し、ある意味「無防備」な環境下でいかに感染リスクを回避できるか、カギとなるのは「空間除菌」だ。人が活動する空間そのものから菌やウイルスを除去できれば

ノーマスクでも、安心して生活できる。そこで再び注目を集めているのが次亜塩素酸である。次亜塩素酸は、ウイルスや菌の細胞膜を突破し細胞内部へ侵入して直接菌を無効化する力があり古くから水道水やプールの除菌にも使用されてきた。一時期、空間噴霧が危険との風評もあったが、昨年10月に厚生省も空間噴霧を否定しないとの正式な通達を出している。現在、その特性を活かし、大空間を迅速に除菌する高性能の機器が誕生。また家庭用に安価で備蓄可能な次亜塩素酸水の生成パウダーが開発されコンパクトな噴霧器も発売され話題だ。規制緩和が進む中「自分の身は自分で守らなければならぬ」状況で「空間除菌」のニーズはますます高まっていくだろう。ウイルス感染症対策のみならず未知のウイルスに備えるためにも、最新技術搭載の製品に期待したい。

次ページから
進化する感染症対策製品を
詳しくご紹介！

※新型コロナウイルス感染症の予防を保証するものではありません。



※製品使用の際はその安全性情報や使用上の注意事項等を守って適切にご使用ください